

韓国キムチパワー



よしむら かずなり
吉村 和就

(グローバルウオークジャパン 代表)
国連テクニカルアドバイザー

ソウルから招待状

筆者の携帯に一本の国際電話があった。流暢な英語で「韓国政府要人から、世界水ビジネスを話せる人を探すように依頼されているが、貴君を推薦して良いか？ 全ての費用は韓国側ですべて持つ」と。もちろん二つ返事でYES、電話を掛けてきたのは世界的に有名なコンサルタント会社からであった。それにしても筆者の携帯番号をどうやって調べたのかなと疑問が残った。

翌日、主催団体の「韓国経営者協会」から詳細なる電子メールが来た。それによると「第三十五回・全国最高経営者会議」を二月十五日から十七日までソウル市で行う。筆者に要請された講演タイトルは「世界水戦争が始まった」で一時間の講演である。依頼主は韓国経営者協会（KEF）で、その設立は一九七〇年、総会員数四千社を超える巨大なる

政治力を持った組織である。（日本の経団連は千六百三社・団体が加入）KEFの設立主旨には、①産業間連携の促進、②雇用の創出、③海外企業の韓国への投資機会の促進、④公平なる社会の実現、企業の社会的責任の確立などが述べられている。ボードメンバーも凄い、サムスン、LG電子、POSCO（韓国最大の鉄鋼メーカー）、斗山重工業、STX重工業（KEF会長）、SK化学、KT（韓国最大の通信事業）など世界に冠たる韓国企業のオーナーや会長、社長がオンパレードである。

二月十五日羽田空港からソウル金浦空港に向かう。金浦空港でネームカードを掲げた係員と合流、空港出口に横付けされた黒塗りのリムジンに乗り込み、会場のソウル朝鮮ホテルに向かう。ホテル到着後すぐに部屋に案内されたが、部屋の中に部屋があるスイートルーム、テールには主催者のカード入りフルーツバスケットが置かれていた。案内してくれたボーイからは「ホテル内の食事、飲み物は全て主催者の負担ですから、ホテルライフをお楽しみください」と聞かされた。なるほど、こうやってノウハウを持つ日本人を手なずけてきたのか、筆者も彼らの手口を楽しむことにした。

韓国・第三十五回全国最高経営者セミナー

午後からセミナー開催、主催者の挨拶のあと、金首相が演説。私は、先月サウジアラビアで開催された「世界未来エネルギーサミット」に参加し、韓国の再生可能エネルギーの先端技術を世界に発信してきた。今日お集まりの企業家諸君と力を合わせ、我が韓国の先

端技術を世界に広めようではないか」と力強く宣言した。

少し横道に逸れるが、この「世界未来エネルギーサミット (WFES)」は五年目を迎え、再生可能エネルギー、エネルギー効率に関する世界でも最も重要な年次会合である。世界各国の代表団三千人を含む二万六千人以上の参加があり、国連の潘基文 (パン・ギムン) 事務総長が基調講演したあと、中国の温家宝首相が「エネルギーの安定供給に向けた国際協力の重要性」を訴えた。もちろん中国はいつものようにトップが率いる経済外交を展開、中国石油化工集団 (シノペック) や多数の企業人を同行させサウジに石油精製工場の建設の約束、また四千五百五十万トンの石油輸入を約束している。世界各国から首相級が参加しているこのサミット、では日本からこの重要なエネルギーサミットに誰が参加したのか、経済産業省の柳沢政務官が参加したのみである。原発事故のあと、エネルギー確保が国の最重要課題である日本国の態度の低さを露呈している。もちろんサミットに先立ち一月十二日から十五日にかけ玄葉外相が、サウジやカタール、UAEを訪問したが存在感がなかった。なぜなら中国や韓国は首相自ら今回のサミットを通じ多くの産油国の国王や王子と直接面談し、自国のエネルギー確保を約束させているからだ。話をセミナーに戻そう。

グローバル経済への新戦略セミナー

今回の技術関連セミナーで紹介されたのは、微生物工学、ソーラーパワー、バイオテク

ノロジー、モバイルテクノロジ、それに水ビジネスであった。大型スクリーンを前に、全国から参集した経営者やオーナー企業主など三百人以上が熱心に聞き入っていた。

筆者の「世界水戦争が始まった」では、世界の水資源の現状、国際河川での水争い、米国のオガララ滞水層の枯渇問題、さらに今回の主目的である世界水ビジネスの現状と各国の戦略、水メジャーや巨大企業 (GE、IBMなど) の水戦略を述べ、最後に日本の置かれている水災害 (東日本大震災被害や原発事故による放射能汚染) について講演した。

東日本大震災に関して説明した後に、筆者は参加者に語りかけた。

①被災直後三月十二日に韓国の救助隊 (百二人、捜索犬) が世界の誰よりも早く震災現場に入り活動した。瓦礫の中からの救出は七十二時間が限度、日本国民は韓国の素早い行動に感謝している。

②三月十一日から四月十六日までに、韓国から日本に寄せられた義援金は四十三億円を超えた。

③韓流スターの「ペ・ヨンジュン、キム・ヒョンジュン、チャン・グンソク」さん達は被災地や仙台に入りボランティア活動を展開、その収益金は全て義援金に回している。

以上の三点により「日本国民は韓国の皆さんから、生きる勇氣と元気をいただいた」と。

また「政府間の問題は色々あるが、私は日本国民の一人として、今日参加の企業経営者の皆さんに深く感謝いたします」と締めくくった。会場の聴衆から大きな拍手が湧き起った。

韓国経営者トップの姿勢

講演が終わりコーヒーブレイクタイム、大勢の経営者が小生に寄って来て質問攻め。地球温暖化が進むとアジアの水はどうなる、海水淡水化ビジネスの問題点は、インドの水市場はどうか？ などであるが、全ての経営者は英語で質問してくる。まさにキムチパワーで次々と質問攻めである。新しいビジネスのネタに対して経営トップが自分の言葉で直接情報収集する積極的な行動力が感じられた。やはりグローバルなビジネスを展開している韓国のトップである。この前向きな行動力が韓国企業の強みであることを実感させられた。壇上で協会幹部と記念撮影したが、この壇上上がった経営者の売り上げを合計すると韓国経済の三割位に相当すると聞かされた、キムチパワーの凄さである。



韓国経済の行方

筆者が国連NY本部に勤務していた頃、世界の外交筋から日本は「アジアのATM（現金自動預払機）」と呼ばれていた。「日本を叩くと、すぐ現金が出てくる……」の例えである。現在の韓国は世界の金融業界から「ATMコリア」と呼ばれている。一九九七年韓国企業が次々と破綻し、IMF（国際通貨基金）から融資を受ける際に金融市場の開放が義務化された。つまり外国人投資家が韓国の金融市場でATMマシンのようにいつでも自由に現金を預けたり払い出すことが出来るようになった。その結果、韓国の国際証券市場は世界経済の影響に対して極めて敏感であり、好況の時は世界中から韓国に現金が流れ込み、不況になると現金が飛ぶように逃げ去り、韓国経済が疲弊する例えである。しかしIMF管理下で地獄を見た韓国は、民間企業出身で叩き上げの男である李明博大統領を迎え、急速に経済回復し、今や世界に鳴り響く成果を打ち出している。国内市場が小さく、「国の繁栄は外貨の獲得である」と輸出振興策を強力に推進してきた李大統領のキムチパワーである。日本の政治家も見習ってほしいパワーだ。

時々、マスコミには「韓国経済は見せかけである。一部の大企業に富が偏在し、庶民は物価高に苦しめられ格差は益々広がっている」と述べられているが、宿泊したホテルの隣の老舗ロッテデパートは買い物客であふれ、高額商品が次々と売れていた。街角の経済観測であるが、韓国のキムチパワーを実感した三日間であった。